

研修医教育の評価とフィードバック

2004年から運用されている初期研修制度は、新卒医師が専門の診療科を決める前にローテート方式によって多くの診療科で研修することにより幅広い臨床技能を身につけることを意図している。研修指定病院にとって、教育は医学研究、臨床による地域貢献とともに重要な役割である。しかし一方で、臨床や研究活動が優先され教育に十分な時間や労力が費やされているかは不明である。臨床や研究活動が優先される場合、単に指導医の志向によるものだけでなく、診療実績や論文数、インパクトファクターなど臨床や研究は評価方法が定まっていることに対して、教育に関しては評価方法が確立、標準化されておらず医師個人の活動実績につながらないことや手応えが得られないことも要因に考えられる。しかし、新卒医師への教育の質の低下は将来の医療の質を下げることにつながり社会的損失が大きい。そのため、臨床研修医の評価方法やより良い研修教育のために重要なことを調べる必要がある。現在行われている研修医の臨床能力の評価を結果を基により良い研修プログラムの推奨を行うことを目的に研究を行う。本抄読会では初期研修医の臨床能力の評価の現状の紹介と今後の解析について議論したい。